

いなみ町 議会だより

No.102
2024.6

令和6年 第2回定例会

議案審議	P2	一般質問(4名が登壇) ...	P3～P6
委員会報告	P7	団体紹介	P8

七夕コンサート

議案審議

6月定例会は13日に開会し、議案12件をすべて可決、同意し、19日に閉会しました。

定額減税

質疑

定額減税について、住民税が影響する範囲の説明をしてください。

答弁 税務課長

納税者本人と配偶者を含めての扶養人数、1人当たり1万円の住民税を減税します。

質疑

定額減税によって、町に納付される住民税が減ることになりますか、その分は国から補填されるのですか。

答弁 税務課長

その通りです。地方特例交付金により全額国費で補填されます。

議案に対する各議員の賛否

○= 賛成 ×= 反対

種類	議案番号	議案内容	黒井	木村	岡本	谷	中島	片山	古川	杉谷	玉置	榎本	前田	堀口
条例	30	印南町税条例の一部改正(専決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	31	印南町過疎地域における固定資産税の特別措置に関する条例の一部改正(専決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	32	印南町国民健康保険税条例の一部改正(専決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	—
	35	印南町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
予算	33	令和5年度印南町一般会計補正予算(第9号・専決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	34	令和5年度印南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号・専決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	39	令和6年度印南町一般会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	40	令和6年度印南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	—
	41	令和6年度印南町水道事業会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
人事	38	教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
他	37	損害賠償の額を定めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
契約	36	動産の購入契約について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
報告	1	令和5年度印南町一般会計繰越明許費繰越計算書について	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※議長は裁決に加わりません



災害対策について

質問 災害時の一時避難場所について、南海トラフ地震を見据えて公設・民設を問わず、避難場所の収容人数、備蓄量等を再点検し不足することがないかなど再検討されるお考えはありませんか。

答弁 総務課長 災害発生時の一時避難場所について、町指定避難所に合わせて想定避難者数を受け入れるために、町内3か所のゴルフ場、島田地区の弘龍庵と災害時における施設利用に関する協定を締結しています。

質問 防災福祉センターにおきましても、防災拠点ではありませんが、一時的な避難者の受入れも想定しています。

答弁 総務課長 地区内の住民情報を把握し、日頃から連携を取るためにも要援護者台帳など、備え付けたいと思いますがいかがですか。

質問 要援護者台帳につきましては、避難支援等関係者への情報提供の同意をいただいておりますが、情報提供は可能ですか。

答弁 総務課長 しかし、個人情報になりますので、現段階においては、要援護者台帳を各地区自主防災会へ単に備え付けることについては、今のところ考えていません。

質問 大災害が起こったら、近隣の人がやっぱり助け合うということがもとも大切だと思います。区長に管理してもらった方がいいと思いますがいかがですか。

答弁 総務課長 隣近所のいわゆる近所助け合いということにつきましては、私も同感でございます。制度上、情報提供は可能でありますけれども、きちつとした管理が課題なのかなというふうに思っています。

てございます。要援護者台帳を自主防災会へ単に備えるということについては、見合わせます。

質問 稲原地区における仮設住宅は、どこに何戸ほど建て、何人を収容できる予定ですか。

答弁 総務課長

稲原地区における仮設住宅建設予定地は稲原西運動場となっております。95戸の建設を予定しています。

事前復興計画では、1戸当たり2名を想定してまいして、1戸当たりの延べ床面積は50平米という算定で、190名の避難者を受け入れる応急仮設住宅の建設ということを想定しています。

す。

質問 災害廃棄物の処理について、稲原地区に仮の処分場を計画していただきたいと思いが、いかがですか。

答弁 生活環境課長

稲原地区への仮置場の開設については、被災状況、災害廃棄物の種類や量、状況により検討するものと考えています。





ここが聞きたい!

岡本 庄三 議員

マイナス金利政策の解除について

質問 令和6年3月20日、日本銀行はマイナス金利政策を解除し、17年ぶりに利上げすることを選択しました。

これにより、今後、金融機関の預金金利等も上昇することが想定されます。公金の管理や公共事業の実施等にどのような影響がありますか。

基金以外の現金の管理について、令和4年度決算書では預金利息はゼロでしたが、今後は利息収入が見込まれますか。

現在、会計管理者が管理している預金の種類にはどのようなものがありますか。

別段預金、当座預金、定期預金、普通預金等預金種別ごとに直近預金残高を併せて説明をお願いします。

答弁 会計管理者

令和6年度においても利息収入はゼロ円となる見込みです。直近預金残高は、令和6年5月31日現在で別段預金10億1、

151万円、当座預金100万円、定期預金80億2,080万円、普通預金9億6,953万円、国債が4億9,925万円となっております。

なお、ここでの普通預金は定期預金等の運用を行うための一時的な残高です。

質問 マイナス金利下では、現金の安全性の確保を優先して判断していたと、思いますが、今後は預金利息を意識した現金管理が必要だと思えますが、公金の有利な運用についての考え方についてご説明いただけますか。

答弁 会計管理者

地方自治法にも記載されておりますとおり、金利等考慮しまして、効率的な運用に努めてまいりたいと考えています。

質問 基金以外の現金については、流動的な要素が大きい

め、無利子の決済預金、先ほど言いました別段預金や当座預金による管理が主なものと思いますが、多少でも利息収入が見込めれば、有利子の預金による管理は出来ませんか。

答弁 会計管理者

利子発生ができるという状況であると判断できれば、短期の利子の運用、3か月といった短期の運用を行って、利子の計上というのに努めてまいり、こういった必要もあるかと思えます。

質問 流動的な要素が低い基金についても短期の定期預金による利息収入は期待できると思います。また固定的な運用が可能です。

な基金については長期の国債による運用も有利であると思いますが、会計管理者の見解をお聞きます。

答弁 会計管理者

長期の国債、短期の定期、これらの運用による利子の計上というのは必要なことと考えています。できるだけ有利な運用ができるようにと、考えています。





黒井 美晴 議員

農業用施設整備 事業補助金等の 見直しについて

質問 農業用施設整備事業は、

農業用施設の改良、改修、維持修繕、小規模災害の復旧等を実施し、農業生産の条件整備を目的とし、平成24年4月から実施されています。

今日、コンクリート価格や人件費の上昇で、実質2倍近くの費用となっています。(＝受益者の負担増)

そこで、さらなる農業者支援の立場から、補助金の見直しをしていただきたいが、いかがですか。

答弁 建設課長

20万円以上の事業費を要するものであれば、県事業の「小規模土地改良事業」を活用できます。

災害復旧に関しても、大きなものになれば、国の災害復旧事業の申請が可能となります。

補助金の見直しについては、今後、検討していきたい。

質問 県の補助金「小規模土地改良事業」の、受益範囲等は、

印南町の農業施設整備事業補助金と同様ですか。

答弁 建設課長

ほぼ同じ採択条件です。その中で、20万円～200万円程度の農道の整備・農業用水路の整備で活用していただいている事業です。

生活道の安全 対策の実施につ いて

質問 昨年の3月議会でも同様の依頼をさせていただきましたが、引続き

提起したいと思いますが、安全対策の一つとして、道路

両脇等の白線の有無が大きなウエイトを占めると考えます。

白線が無いと、特に雨降りの夜間の危険度が増します。

現状の白線を見ると、白線が消えている箇所が多くあります。

そこで、安全確保に重点をおいた、特に必要な箇所や住民の希望箇所等を洗い出してください。町道については、早期の白線引き直しを要望します。

また、県道等においても引続き強い働きかけを実施していただきたいと思いますが、いかがですか。

答弁 建設課長

白線の引き直しは安全対策に効果があるものと考えています。

今後も安全確保に重点を置き、地元の情報を頂きながら、これまで同様、白線の引き直しを実施していききたいと考えています。

また、県道管理においても、引続き道路管理者に要望していききたいと思っています。



質問 印南原区においても、白

線の消えた箇所が多数あり、特に南畑全般と柳畑が多いように見受けられます。事故になる前の対策として、カーブミラー腐食等点検同様に全区を対象とした白線点検をお願いしたいと思っています。

答弁 建設課長

職員が現場へ行く際には、危険な箇所を注意しながら点検を実施しています。

また、地元の方々の意見も頂きながら、これまで同様に白線の引き直しを実施していききたいと考えています。



ここが聞きたい!

榎本 一平 議員

梅の被害状況と対策を問う

質問 梅農家では、電とカメムシ被害が深刻になっています。被害状況はどのようになっていますか。

答弁 企画産業課長

3月20日の電被害は、総額1,697万円、カメムシ被害は町内11園地で調査し、カメムシの発生確認は5園地、被害が確認できたのは、1園地で、被害総額は算出されていません。

質問 梅農家から「箱詰めの梅より、圧倒的に加工梅の量が多く、肥料代、農薬代も高騰し、大打撃」との声です。

和歌山県の梅が大きな被害を受けていますが、県の対策はどのようなになっていますか。

答弁 企画産業課長

1市7町の被害総額は約21億5,270万円です。
県は特別融資をします。県・

町・JAが利子補給し無利子で上限200万円または被害額金額のいずれか低い方という形で貸付限度額を設定し、償還期限は5年以内とします。

大阪万国博覧会への教育旅行支援事業を問う

質問 大阪万博が計画されていますが、会場となる夢洲がごみ処分場として埋め立てられているためメタンガスが発生し、ガス爆発が発生し大問題になっています。

県は「教育旅行参加支援事業」として、予算も組んでいます。

どこの場所でもガス爆発の危険性があり、子供たちの命に関わる問題と考えます。

教育委員会としてこの事業に「参加しない」と判断するよう求めます。

答弁 教育長

6月20日にオンラインで事業

説明会があります。
中学生には世界の英知が結集する場に参加できないかと、思っています。

自然災害時の水の確保

質問 私は4月23日から25日まで能登半島地震災害ボランティア支援に行ってきました。

現地に足を運んで、改めて問題意識を持ったのは災害時での水をどのように確保するか、という問題です。

水の備蓄の現状はどのようになっていますか。

答弁 総務課長

2ℓペットボトル8千本備蓄しています。飲料水確保として、令和4年3月に(株)ナカエ様と物資協定をしています。

質問 能登半島では分断された道路がようやく修復されつつありました。
自然災害では必ず道路の分断が発生し、水の供給が遅れます。

町が指定する避難所に水を備蓄しておく必要がありますか。

答弁 総務課長

議員からの指摘は、検討課題として、今年から来年にかけて見直しをする「地域防災計画」に反映していけたら、と考えています。



委員会活動報告

総務産建常任委員会報告

◎木村 栄一 岡本 庄三
◎谷 章資 玉置 克彦

片山 智文
堀口 晴生

◎委員長
◎副委員長

総務産建常任委員会では、閉会中の継続調査として「第一次産業における後継者問題について」を調査するために、企画産業課長及び職員を招き、本町の第一次産業の現状と国・県等の事業についての説明を受けました。

【日時】

令和6年4月26日（金）

本町の農業従事者は、2010年からの10年間で約340名減少し、1007名、平均年齢は約64歳（2020年時点）
漁業従事者は、2008年からの10年間で27名減少し、71名、65歳以上が48%（2018年時点）

2020年の農林業センサスでは「後継者がいない」と回答した人が約77%。2018年の

漁業センサスでは約80%に上ります。

第一次産業の担い手不足や高齢化の問題が深刻であり、国・県は「新規就農者育成総合対策」、「次代につなぐ漁村づくり支援事業」等を実施しています。

また、「日高地域新規就農者育成協議会」を日高郡1市6町、JA紀州により構成し、新規就農につなげています。

本町では、直近3年の間に親元で3名が就農したが、他市町村からまたは他産業からの新規参入者はいません。

今後粘り強く、第一次産業の魅力を発信していくことが重要であると再認識しました。

文教厚生常任委員会報告

◎中島 洋 黒井 美晴
◎古川 眞 榎本 一平

杉谷 考祥
前田 憲男

◎委員長
◎副委員長

文教厚生常任委員会では、閉会中の継続調査として「学校統合事業について」を調査するために、中学校統合委員会や、教育長等と一緒に、奈良県吉野町小中一貫教育校「吉野さくら学園」と和歌山県の「和歌山市立伏虎義務教育学校」を視察しました。

【日時】

令和6年6月6日（木）

「吉野さくら学園」では、ふるさと吉野への郷土愛・愛着心あふれるひとづくりをコンセプトに、0歳から15歳まで切れ目なく「木とふれあう、木に学ぶ、木と生きる」を基本理念とした成長段階に応じた木育プログラムを展開する等、木の町吉野町ならではの小中一貫教育が実施さ

れていました。

また和歌山市の中心部に位置する「伏虎義務教育学校」では、1年生から9年生の系統だった外国語教育や理数教育など、一貫校ならではの教育プログラムが組まれ、また同じ運動会を開催する等して異学年交流による精神的発達や安定を促すなどのメリットを活かした教育が進められていました。

今後は印南町としてどういった学校統合基本計画を定めているのか、議会としても活発に議論に加わっていききたいと思いました。



里山はぐくみ隊

―地域・自然・遊び―



2023年2月 麦踏み 参加者のみなさんと

結成の経緯

県産小麦で安心
安全な給食パンに
提供したいと、小
麦作りをしている
団体の存在を知っ
たことがきっかけ
で、空き農地が増
えてきた美里下津
川地区でもできな
いかと、二〇二二
年三月に地域の者
五名で「里山はぐ
くみ隊」を結成。
農業農村活性化
支援モデル事業と
して、取り組みを
始めました。

活動内容

地域・自然を守
りながら、人とつ
ながって楽しく暮
らしたいという願
いから、「ホタル

を見る会」「たそがれコン
サート」「里山散歩」「オカ
リナコンサート」「地球をま
もろう谷口たかひさ お話会」
「ヒンメリ作り」等を行って
きました。収穫した小麦は、
学校給食会に提供していま
す。

一言

空き農地が増えています。
地域内外から参加してくれる
みなさんといっしょに、環境
や食について考えていきたい
と思います。

地元産の小麦でできたパン
やピザを食べたいなあ。

生き物いっぱい、育てるっ
て楽しいよ！

代表 深津 孝子



掲載団体募集のお知らせ

裏表紙で紹介する町内
の団体を募集しています。
掲載を希望する団体は
議会広報特別委員会まで
ご連絡をお願いします。



2023年5月 収穫前の小麦



2022年7月 ひまわり畑でたそがれコンサート

議会広報特別委員会

■ 委員長 前田 憲男 ■ 副委員長 片山 智文
■ 委員 黒井 美晴 / 谷 章資 / 中島 洋 / 古川 眞